

# Mado 窓



## 神経内科教授就任の御挨拶ならびに 神経内科の御紹介

北里大学医学部神経内科学  
主任教授 西山 和利

この度2012年6月より北里大学医学部神経内科学に参りました西山和利でございます。6月1日付にて北里大学医学部神経内科学講座の五代目教授に、同7月1日付にて北里大学病院および北里大学東病院におきまして神経内科長に、就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私どもの教室は、初代教授である田崎義昭が第三内科として興し、その後は二代目教授・古和久幸、三代目教授・坂井文彦、四代目教授・望月秀樹とその歴史が引き継がれて参りました。現在では大講座制内科ではなく臓器別講座となっておりますが、病床数は急性期疾患を中心とした大学病院本院と、慢性期疾患を中心とした北里大学東病院とをあわせて、70超を有しており、これは全国の大学病院の神経内科の中でも最大規模の一つであります。このような大きな組織の臨床系教室の責任者に任ぜられましたことは、浅学非才な小職にとりまして身に余る大役と自覚しております。また北里大学病院本院では、2014年度開院予定の新病院の建設が順調に進んでおり、新たな診療体制の立案と推進を急いでおります。さらにはその翌年からの北里大学東病院の発展的組織改変をも見据えた組織の構築が望まれており、本学にとって大いに重要な時期にあたります。本学の神経内科学講座は、大学病院本院にも東病院にも大きな病床を保有する計画となっておりますので、こうした大きな変革の時期に責任者として運営にあたるのが許されますこと、本当に身も心も引き締まる思いでございます。

さらに最近の本学神経内科の動向としましては、北里研究所病院（東京都港区）や北里研究所メディカルセンター病院（埼玉県北本市）にも神経内科学の責任ある立場のスタッフを派遣しております。即ち合計四施設の神経内科部門をひとつの講座単位として建設的に統括して参ることが小職の当面の課題であると理解いたしております。これは

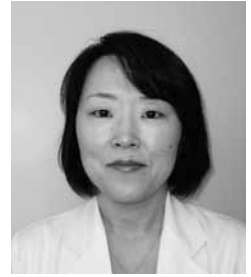
大変大きな責務ではございますが、大いにやりがいのある課題を頂戴したと、心より嬉しく思っております。

さて、少しく自己紹介を申し上げますと、小職は昭和37年に兵庫県神戸市に生まれ、地元の灘高等学校を経て東京大学に入学いたしました。昭和62年に東京大学を卒業しましたが、学生時代は医学部アメリカンフットボール部の創部に携わり、スポーツにあけくれておりました。医師になりましてからは、6年以上の北米での留学経験も含めまして、国内外様々な施設を経験して参りました。その間、常にチームプレーの重要性、スタッフの特性を生かしたチーム運営を念頭において参りました。これは私が、チーム競技であるアメリカンフットボールの選手であったこと、学生時代にそうした部を興した経験を有することに起因いたしております。

北里大学病院に参りまして強く感じますことは、諸先輩方から引き継ぐ伝統の重みでございます。私は、北里大学グループに培われた伝統という大きな土台の上に、独自のチームプレーの精神を導入することで、神経内科学の発展と良き医療人の育成に貢献して参りたいと考えます。本学の神経内科の特徴としまして、超急性期脳血管障害の最先端治療～急性期神経内科疾患のケア～神経難病のケアと幅広い神経内科学を実践できること、臨床ボリュームが格段に大きいこと、有能なスタッフに恵まれていることかと自負しております。若手医師にとっては「すべての神経内科診療を学べる施設」であることを目指し、シニア以上の医師にとっては「どこにも負けない専門性の高い診療」を実践してもらうことを、主方針といたしております。これらを通じて、次世代の神経内科診療を委ねられる人材の育成に日夜励んで参る所存でございますので、皆様からの絶大なるご支援とご指導をお願い申し上げます。

(にしやま かずとし：北里大学医学部神経内科学 主任教授)

## 漢方外来の紹介



総合診療部  
漢方外来 五野由佳理

現在、総合診療部において、漢方外来を担当させていただいております、五野由佳理と申します。

当大学病院では、2006年より総合診療部において保険診療の漢方外来を始めました。当初は週1日でしたが、徐々に患者数も増え、現在は月～金曜日の午後に3名の医師で分担して外来を行っております。

当大学の東洋医学総合研究所は、1972年に日本初の東洋医学の総合的な研究機関として港区白金の地に設立されました。歴代所長は、日本の漢方医学の先駆者であり、漢方医学の発展に尽力された先生方です。現在も、全国から東洋医学を志す医師が集まり、品質の良い生薬（漢方薬の原料）を用いた漢方治療や鍼灸治療および研究を行っております。昨今、約8割の医師が漢方薬を処方した経験があるという現状の中、2001年からは漢方医学が医学教育に組み込まれるようになり、漢方治療に対する患者のニーズも拡大してきています。そこで、当大学病院でも、更に漢方治療拡大のために、東洋医学総合研究所と連携し、漢方外来の充実を進めてきております。

対象疾患としては、風邪や頭痛などから慢性的な内科疾患、皮膚科疾患、産婦人科疾患、整形外科疾患、耳鼻科疾患、泌尿器科疾患、精神科疾患などと広く、場合によっては、小児の方も拝見しています。特に、漢方治療の得意分野としては、冷え症、胃腸虚弱、易感冒、アレルギー体質などです。通院中の方の約半分以上は当院他科もしくは他院と併診されております。中には、漢方薬のみの治療を希望で来院される方もいらっしゃいますが、西洋薬が必要な場合には、説明をした上で他科および他院への紹介もしております。その方により良い治療選択をアドバイス出来るよう心掛けております。また、漢方と云えど

も治療薬ですので、服用後は副作用の発現に注意を払って診療しております。もし、受診ご希望の方がいらっしゃいましたら、完全予約制になっておりますので、内科総合外来の方まで事前にお電話をいただければと思います。漢方薬の適応があるかどうかのご相談だけでも結構です。

他に、漢方の啓蒙活動として、一般の方および職員向けに年4回（4、7、10、1月の第3週土曜日14時から）漢方教室を大学病院にて開催しておりますし、定期的に相模原医師会でも勉強会をさせていただいておりますので、ご興味のある方は自由ですので是非ご参加ください。宜しくお願い致します。

（ごの ゆかり：総合診療部）

## MEセンター部の紹介

MEセンター部  
技師長 東條 圭一

平成23年7月より、大学病院・東病院MEセンター部の技師長を拝命いたしました東條圭一です。今回は、両病院で活動しておりますMEセンター部について、紹介いたします。

まずは、MEセンター部の「ME」ですが、これは Medical Engineering の略で、医用工学を意味します。医療の中で、工学の知識を有して医療機器を扱う専門家として活動しています。

北里大学病院MEセンター部の前身である医療機器センターは、臨床工学技士法が施行される以前の1981年に開設され、日本国内でも臨床工学技士部門としては古い歴史があり臨床工学技士法制定のモデルとなっております。北里大学病院・東病院では「MEさん」として定着しており、院内での役割は確立しておりますが、国家資格としては新しいため、祖父母に自分の職業を説明するときには未だに苦勞いたします。

さて、我々の業務をもう少し具体的に紹介いたします。まずは、医療機器の保守管理ですが、院内で共通に使用される医療機器を一手に引き受けて、自動車であるところの車検に当たる保守点検を計画的に行い医療機器の故障を未然に防いでいます。また、一元管理にて必要な診療科や病棟へ貸出を行うことによって、医療機器を有効的に活用できるようにしています。さらに、院内の機種統一を行って、操作方法の統一化を図り医療安全に貢献するとともに計画的に医療機器の更新を行い、一括購入による医療機器や消耗部材の購入コスト削減にも貢献しています。現在、大学病院でMEが管理している医療機器は総額約40億円です。割引2割3割当たり前の医療機器も数十台数百台と大量購入すると4割5割引で購入できますから、一元管理による購入コスト削減効果は総額約8億円、医療機器の寿命が約10年ですから年間約8千万円もの経費削減

も可能となります。医療機器のメンテナンス料も、年間で機器定価の約5%程度かかりますが、こちらもMEにて自前で行っていますので、MEによる医療機器管理は大学病院だけでも年間1億円以上のコスト削減効果があります。

MEのもう一つの役割として、医療機器の安全管理があります。初代MEセンター部長である財団法人医療機器センター理事長の渡辺敏先生は、現在の医療安全文化が発展する以前のMEセンター部開設当初から、医療機器の安全管理に積極的に取り組み、その当時の思想は今でも色あせることなく北里大学病院MEの伝統として受け継がれています。そのため、MEのスタッフは当直体制にて24時間常駐し、院内で発生する医療機器に関する如何なるトラブルも迅速に対応しています。また、医療機器に関するチェックリストや使用手順書の作成、研修会の開催など、トラブルを未然に防ぐ活動も積極的に行っています。

さらに、MEの役割としては、生命維持管理装置の操作があります。特に、緊急心臓・大血管手術に対する人工心肺装置や、腎不全患者の急性増悪に対する緊急透析、急性呼吸不全患者に対する人工呼吸器の設定など、救急医療においても重要な働きをしています。時には、医療機器を設定する医師や看護師に対して、アドバイスなども行っています。

このように、我々MEは、日々医療機器の本来のユーザーである患者さまのために、安全性の高い効果的な医療機器を提供するべく、日々活動しています。現代の医療機器の進歩は目覚ましいものがあり、携帯電話がスマートフォンになったようにどんどん複雑化していますが、医療機器に関することは何でも我々MEにお任せください！

(とうじょう けいいち：MEセンター部 技師長)

# セカンドオピニオン外来及び 脳神経外科外来事前予約の取扱いについて

平素より何かと当院の病診連携の業務にご協力をいただき誠にありがとうございます。

この度、患者サービスの向上のためセカンドオピニオン外来の整備と脳神経外科外来における外来患者事前予約サービスを実施することになりました。

受付開始は9月1日より開始いたしますが、詳細につきましては下記の担当までお問い合わせをお願いします。

### 【セカンドオピニオン外来】…… 関係書類を同封いたします。

従来各科で対応されていたものを、窓口と手続きの統一で診療の効率化を図りました。

#### 1. 対象

セカンドオピニオンを希望し、なおかつ医療機関より診療の情報提供をされることが原則となります。

#### 2. 対象外

- 1) 転院や治療の希望
- 2) 診療情報提供書他必要な情報の提供がなされない場合
- 3) 医療過誤や訴訟に関する相談の場合
- 4) 患者が死亡している場合
- 5) 相談料（保険外）の支払いの承諾が得られない場合

#### 3. 申込み

お申し出と同時に上記の条件を承諾したうえで所定の申込書と診療情報提供書を提出する。

#### 4. 相談日時

申込書と診療情報提供書から日程を調整して相談日時をご連絡いたします。

#### 5. 相談料

保険適用外となりますので私費料金となります。

#### 6. 相談に必要な書類

- 1) セカンドオピニオン外来申込書
- 2) 診療情報提供書（紹介状）
- 3) XP・CT・MRI・検査記録等（必要に応じて）

### 【脳神経外科外来紹介患者事前予約サービス】

外来の待ち時間短縮のため紹介患者事前予約サービスを開始しました。

1. ご紹介の場合紹介元の医療機関より、下記の担当まで電話でお申し込みをお願いします。
2. その後所定の申込書と診療情報提供書のFax送信をお願いします。
3. 予約日は、診療情報提供書の内容を確認のうえ、調整後連絡させていただきます。
4. 事前予約サービスとは別に、紹介患者さまの診療受付は従来どおりに行っていますので、事前予約が取れない場合でも午前11時までご来院いただきますようご案内をお願いします。

### セカンドオピニオンと脳神経外科事前予約サービスの申込み・問い合わせ先

北里大学病院 患者支援センター部 病診連携担当

電話 042-778-9988 Fax 042-778-9599

※サービスの概要と申込書等については、Faxで送付することが可能です。  
また、北里大学病院のホームページに概要の掲載と関係書類のリンクを貼ってありますので併せてご利用くださいますようお願い申し上げます。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1  
北里大学病院 患者支援センター部  
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599  
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>  
E-mail / [shoukaiw@kitasato-u.ac.jp](mailto:shoukaiw@kitasato-u.ac.jp)